

検査前に注意すること

当日

1 そでのゆったりした
服装をこころがけましょう。



2 検査前は
安静にしましょう。



前日

1 夕食を早めにとり、
お酒はひかえましょう。



2 運動は避け、
身体を清潔にしましょう。



血液検査

病気は、外見だけからではわかりません。そこで、隠れている病気を発見するための初期検査として有効なのが、血液検査です。

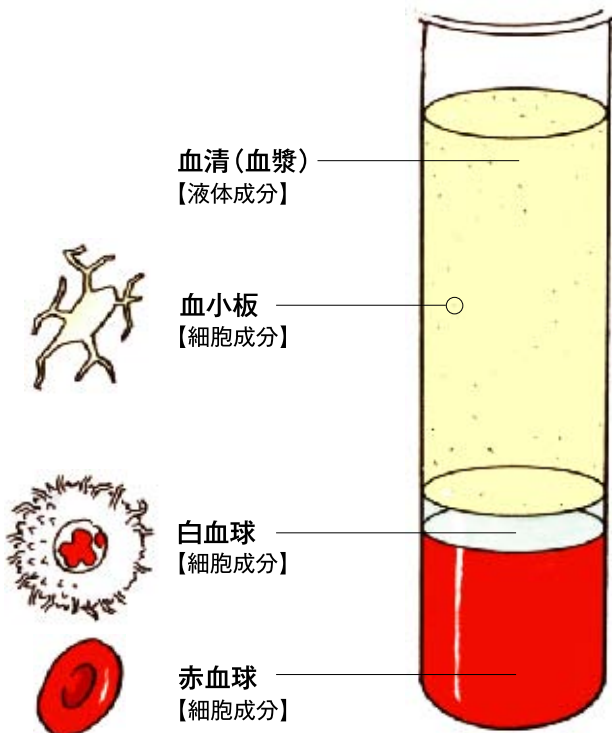
血液は心臓のポンプ作用によって、全身をくまなく巡回しています。血液は臓器や組織の状態を常にく反映していて、異常が起きると血液の成分に影響が現われます。全身の健康状態を調べるには血液検査が基本で、病気の早期発見にもつながるのです。そのため、40歳から74歳までのすべての方を対象にし

たメタボリックシンドロームの予防健診としての「特定健康診査」でも、血液検査が必須項目になっています（本誌3ページ参照）。

血液検査は、細胞成分を調べる血液一般検査、液体成分を調べる血液生化学検査に大別されます。血液の成分は約6割が液体成分（そのうちの約9割は水分）で、残りが細胞成分です。血液生化学検査では、血液を遠心分離器で細胞成分と液体成分とに分離し、液体成分中の物質を分析します。

血液の成分

抗凝固剤の入った試験管などに血液を入れて放置しておくと、細胞成分が赤血球、白血球と比重が重い順に沈み、血小板は液体成分の血清（血漿）の中に浮きます。



血液検査の主な項目例

※以下の検査項目以外にも数種あります。血液生化学検査は、「特定健康診査」の検査項目に含まれるものを主に取り上げました。

※検査基準値は目安で、検査の意味、変動の原因、治療の必要性は個人個人で異なります。詳しくは医師にご相談ください。

分類	項目	検診基準値	単位			
血液一般検査	白血球数	3500~9000	/ μL	増加は、感染症などの疾患を疑います。		
	赤血球数	男性430~570 女性380~510	万/ μL	減少は、貧血を意味します。		
	ヘマトクリット	男性42~53 女性37~47	%	減少は、貧血を意味します。		
	血色素量	男性13~18 女性12~16	g/dL	減少は、貧血を意味します。		
	血小板数	14~40	万/ μL	減少すると、血液が固まりにくくなります。		
血液生化学検査	脂質検査	中性脂肪	150未満	mg/dL	肥満・飲酒・糖尿病で増加し、動脈硬化を進めます。	
		HDL コレステロール	40以上		低値は、狭心症・心筋梗塞の頻度を増加させます。	
		LDL コレステロール	140未満		高値は、狭心症・心筋梗塞の頻度を増加させます。	
	肝機能検査	AST (GOT)	30以下	IU/L	高値は、主に肝臓の障害を疑います。	
		ALT (GPT)	30以下		高値は、主に肝臓の障害を疑います。	
		ガンマ γ -GTP	50以下		高値は、肝臓の障害、特にアルコールによるものを疑います。	
	糖尿病	血糖	空腹時	100未満	mg/dL	血糖値の上昇は、糖尿病を疑います。
			食後	140未満		血糖値の上昇は、糖尿病を疑います。
		HbA1c	5.2未満	%	増加は、糖尿病を意味します。	
	腎機能検査	クレアチニン	1.2未満	mg/dL	高値は、腎臓の障害を意味します。	
尿酸		7.0未満	高値は、痛風を起こしたり動脈硬化を進める可能性があります。			